



No.37

# げんきガエル



## こども病院ニュースレター

### 診療部紹介

診療部長 小阪 真之

診療部というのは簡単いうと、おもに医師の所属する部署です。ただし、整形外科所属の理学療法士、眼科所属の視機能訓練士、耳鼻咽喉科所属の言語訓練士を含みます。

なお医師だけいうと、平成24年1月1日現在、正規78名に加え、他に46名の医師(フェロー、専攻医、研修医)で合計124名といった大所帯となっています。個々のメンバーについては病院のホームページ(<http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>)の診療科案内のスタッフの項をごらんください。

いずれの職種もこどもさんの診療を専門にしており、いわば小児医療のエキスパートとよんざいい人たちの集団であると自負しています。

当院の診療部の特徴としては、多くの他の大病院と異なり、科ごとの連携が非常に密接で、かつ各科間の垣根が低いということがあげられると思います。平たくいうと、他の科に患者さんを紹介したり、種々の協力や相談を求めたりすることを、お互いが気遣いなく、気軽に使えるということです。当院は皆さんご承知のように、重症の患者さんも多く、単独の科で診療を行なったり、方針を立てて治療を進めていく、ということが困難な患者さんも多いことから、このことは適切な治療を行っていくうえで極めて大切なことであり、当院が誇っていいことの一つだと思っています。

各科の活動内容や特化した診療内容については、

前記ホームページを是非ごらんのうえ参考にされてください。

なお写真は他のはずせない仕事がある医師以外は出席する医局会の風景です。医局長(現在は麻酔科の鈴木監修医)を中心に、ざっくばらんに色々な意見を出して、診療の質の向上に努めています。

最後になりますが、患者さん、ご家族におかれましては、医師に直接には話しくらい、驚きにくいくらいの思いを持たれている方もおられるかも分かりません。そんなことは決してありませんので、どうぞ担当医に面倒なく思慮のないご質問、ご意見をいただければ幸いです。

どうか今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



## 感染対策チーム(ICT:Infection Control Team)の活動

感染管理認定看護師 鳴瀬 由佳

私たちICTは院内感染対策委員会(ICC:Infection control committee)の下部組織としてチームで活動する感染対策の実働部隊です。医師、看護師、検査技師、薬剤師、事務職という多職種で構成されており、週1回(毎週木曜)の会議開催、月1回(第3木曜午後)の院内巡回を行っています。活動内容は、院内の感染症発生状況の把握および発生時の早期対応のための対策実施、病原微生物の検出状況の把握、感染対策マニュアルの作成および改訂、流行性ウイルスに対するワクチン接種の実施、職員教育の実践、感染対策に関する各種相談への対応など多岐にわたります。患者様、ご家族、スタッフなど院内における全ての

皆様を様々な感染から守るべく日々活動しております。

## ICTより皆様へのお願い

- 入室時には窓口にある消毒液で手を消毒しましょう! ブッシュを指先、手のひら、手の甲まで手全体に丁寧にすりこんでください。
- 発熱、ひどい咳、下痢症状など体調の悪い方は面会をご遠慮ください。

免疫の弱い患者様が入院されています



## がん化学療法看護認定看護師となつて

血液腫瘍主体病棟 看護師 後藤 恵美

はじめまして。私は昨年6月にがん化学療法看護認定看護師として認定を受けました。がん化学療法看護認定看護師としての役割は、化学療法を受ける子どもたちとその家族を支え、安心して安全に治療を受けられるよう看護していくことです。化学療法は心身ともに厳しい治療となります。医師・看護師の連携はもちろんのこと、薬剤師、栄養士、臨床心理士など多くの医療スタッフと連携を取り、治療に取り組む子どもたちやご家族の心理的・社会的な側面を理解し、個別的・全人的かつ専門性の高い看護を提供し、苦痛が少しでも緩和できるよう支援していくことを心がけています。

入院での治療は長期に渡ります。乳幼児期では病棟保育士と、学童期では院内学級の先生と一緒に連携を取り、日々成長・発達しているこどもたちの支援を行っています。

現在では、外来で化学療法を受ける子どもたちも増えています。家庭での生活を送りながら、治療を行う子どもたちやご家族の支援を行うことができるよう取り組んでいきたいと考えています。





## 4ヶ月健診で 股の開きが悪いって言われました。これって？

整形外科部長 小林 大介

小児整形外科疾患には様々なものがありますが、その中で最も頻度の高いのが股関節開き拘引症ではないでしょうか？ 今回はこの疾患についてご説明したいと思います。

### 股関節が固いのは？

自治体が主催する4ヶ月健診などで股関節の開きが悪いと専門病院でのチェックを受けるよう指導されます。これは股関節が固い人の中には股関節の脱臼をきたしている人がいるからです。また完全に脱臼にいたらしくとも脱けかかり、いわゆる垂脱臼といった病態も存在しこれらのスクリーニングのために受診が必要となります。

### 診断はどうやってするの？

臨床所見、単純X写真、超音波検査などで病的な固さなのか許容範囲であるのかを判断します。男の子などではもともとちょっと固いといった程度の子も多く認められます。

### 治療はどうするの？

すでに脱臼、垂脱臼をきたしている場合はリーメンピューグルという器具を使用した治療が必要となります。そこまでいたたってない場合には筋の向き矯正、指っこしの仕方の注意、オムツの当て方指導などで様子を見ます。

### 治りますか？

早期に発見された(6ヶ月未満)先天性股関節脱臼の患者のほとんどはちゃんとした治療を受ければ成績良好です。ただ中には経過が思ひたくない場合もあるため、一般病院ではなく専門病院での治療をお勧めしています。

股関節以外の疾患にも幅広く対応しておりますので、お困りの事があればわれわれ整形外科に何でも相談してください。



左股関節の開きが右に比べると  
悪く太腿のしわが深いのがわかります。



レントゲンで見ると左股関節(矢印)の  
脱臼が認められます。



リーメンピューグル  
脱臼、垂脱臼の治療をこれで行います。

# こども病院症例検討会のご紹介

研修教育委員会 宅見 晃子  
学術集会部会

2003年9月に第1回のこども病院症例検討会が開催され、もうすぐ第160回を迎えます。第1回の演題は、「アレルギー科の「小児リウマチ疾患の症例から」

でした。その後各科が持ち回りで、日常診療の中でもちょっと気になる症状の見方・専門医に紹介するタイミング・最新医療情報の紹介等、他科の先生方にも興味を持っていただけるよう工夫をして演説を準備しております。この検討会で、院外の先生方とも積極的に意見交換が行われ、より一層連携を強めていく機会になればと思っております。そのために、より多くの先生方のご参加をお待ちしております。また検討会へのご要望等も遠慮なくお申し出ください。

また、2012年4月からは、総合診療科宅見に替わり

まして横井小児外科部長と城戸循環器内科部長が症例検討会を担当致しますのでよろしくお願ひいたします。



## Concept

エレクト

## 基本理念

癡癡期・小児医療の総合施設として、母と子どもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一緒にこどもたちの健やかな成長を目指します。



## 基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親と子どもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
8. 統合的な高専門医療提供のための経験の蓄積化

## 編集後記

自分が學びになり難かさも過ぎ、或所らの言ふ如前になりました。昨年の今度には思ひもならなかった結果の日々にて、我事を想ひて、いぶつしあるのも寂いのではなげどうか、私たちを振り向く様子を察り老れる身姿を見守りたいです。

さあ前半戦、直前も勿れに、今までの歩みを踏まえにとらわれず

これからが本筋で、頑張りたいのです。

編集委員長：橋本ひとみ  
編集委員：田中英二郎 横山美恵子 竹井 勝浩  
松本 博子 田部 春昌 原始 美子  
長尾 洋

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



**兵庫県立こども病院**

男産期医療センター 小児急患医療センター

TEL 078-732-6961  
FAX 079-735-0910 [診療室]  
FAX 079-732-6980 [予約センター]  
URL <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>  
E-MAIL: [info\\_kch@fp.pref.hyogo.jp](mailto:info_kch@fp.pref.hyogo.jp)